

まえがき

初めまして。

私が助産師という職業に出会ったのは、高校2年生のときです。

従姉妹の出産祝いに産婦人科病棟に行ったとき、かわいい赤ちゃんに感激した以上に、お母さんになったばかりの従姉妹の表情に感激したのです。彼女の笑顔は、まるで女神のようでした。帰り道、「ここで働きたい！」という私に母が教えてくれたのが「助産師」という職業でした。その日から、私の夢は助産師になりました。看護大学・助産師学校へ進学し、念願の助産師になって、10年が経ちました。

その間、産婦人科以外でも、新生児集中治療室や外科病棟、看護大学でも勤務しました。

私の目の前にはいつも「命」がありました。

これから生まれる、お腹の中の命。

生まれたばかりの命。

懸命に生きようとする命。

命の始まりと終わり。

いつもいつも、目の前の命は、私にたくさんのことを教えてくれました。

生きていくことの奇跡、当たり前は少しも当たり前じゃないこと、後悔のないように生きる
こと、無限の可能性、感謝……。

小さな命は、いつもお母さんに見守られていました。

妊婦さんやお母さんになったばかりの女性たちの優しい表情を見るたびに、自分もこんなふう
に愛してもらっていたのだ、と母の愛を知り、感謝が大きくなりました。

悲しい出来事があつたときには、今この瞬間生きていることがどれほどの奇跡かを思い知ら
されました。

お腹に宿った命が大きくなり、産声をあげる。当たり前のように、決して当たり前ではない
のです。

この本には、妊婦さん・ママになったばかりの女性・赤ちゃんと出会う中で私を感じたこと
や思いを書きました。

ママになる・ママになったあなたに贈るメッセージブックです。

こんな考え方もあるんだなあ、と肩の力を抜いて読んでいただけたら幸いです。